

（端裏書）

「大谷藤之丞様 深田三郎右衛門

急要用書

」

以手紙得御意候、余寒強
御座候義御揃弥御堅勝被成
御座珍重奉存候、此元相替儀
無御座候、誠昨日^者御入来
被下忝候、何之風情も
無御座候、残多御座候、扱^者
先年御亡父様御頼ニ付内
御頼母子御取之砌質物之
儀無余義御頼ニ預り私所持
之田地御用立□□置候、右
御戻銀不差分候付旧臘
已来右別取人共より加判
瀬□□^江度々催促
申出苦々敷事ニ御座候
御親父御死去後右等
不操合不一形迷惑筋も
有之候處頼母子受引之
儀定も右等不差分^{ニ而者}
甚以相済不申承候得ハ
米半へ御貸付置田一件
御懸合之筋も有之由夫ハ
兎も角も私共手前候右等
難題申懸候^{而ハ}無此上も
迷惑御座候、何分大急^ニ
差分質地證文御返し
可被下候、何分末次氏^江
早々御相談之上吳々も
右質地急々御返可被下候
且又申進候迄も無御座
候得共月々口銭家賃等
嚴重^ニ末次^江返候

極メ之銀高^{ニ而}年中之暮
万端行届候様御取計
專一^{ニ而}候無左候^而此方
御世話申甲斐も無之
末次^{ニ而}も旧冬、已来之様
子^{ニ而者}□□御世話之
程も被相断候趣^ニ相聞
苦々敷存候、右之段
申進度、如此御座候、以上

正月十二日

5 | 2 1 | 2

(端裏書)

「藤之丞様 三郎右衛門」

追^而申進候、然^者御亡父様
并末次先代より之書付写し懸
御目申候、聊も此方へ難題懸ケ
候筋無御座候間御一覽之上
早々訳付質證文御返し
可被下候、委細ハ尚又又四郎より
御聞取可被下候、以上

正月十三日